opusdei.org

黙想:ラテラノ教会 の献堂(11月9日)

黙想のテーマ:「最初の教皇座」「心と神殿における礼拝」「典礼用具を大切にすること」

2025/11/09

最初の教皇座

心と神殿における礼拝

典礼用具を大切にすること

キリスト教の初期には、聖体祭儀は キリスト者の家庭で行われていまし た。裕福で広い家を持つ家族が、共 同体のために家を提供したのです。 これが原初の「家庭教会(domus ecclesiae) | でした。ローマでの最 初の聖堂はラテラノ大聖堂で、もと は皇帝の親衛隊の兵舎があった土地 に建てられました。318年、教皇シ ルベステル一世が祝別し、最初は救 世主のバシリカと呼ばれましたが、 中世には、洗礼者聖ヨハネと福音記 者聖ヨハネにも献堂されました。ア ヴィニョン捕囚までのかなりの期 間、ここをローマ司教座としていま したから、この聖堂は、すべての教 会の母、頭(cunctarum mater et caput ecclesiarum)と称され、今日 でも入口の碑文に読むことができま す。

今日は、この大聖堂の献堂記念日で す。これは聖座との交わりを強める とともに、キリスト教生活における 聖堂や、礼拝専用の場所が持つ意味 の理解を深める機会でもあります。 今日のミサで唱えられる叙唱の一つ は、この祝いの意味を次のように要 約しています。「この祈りの家はあ なたの住まい、ここに集まるわたし たちの上に、あなたは尽きることの ない恵みを注ぎ、聖霊の神殿となさ います。また、あなたはキリストの 花嫁である教会をいつくしみ深く育 て、喜びに満ちた母として天の栄光 に導かれます | m。このように、目 に見える教会は、洗礼を受けたすべ ての者から成る生きた選ばれた石屋 でできた目に見えない教会の象徴で す。ですから、今日のような祝日 に、私たちは主に願います。御助け によって教会を築き上げ、天のエル サレムという永遠の住まいに到達で

きますようにほる

「まことの礼拝をする者たちが、霊 と真理をもって父を礼拝する時が来 る」(ヨハネ4・23)。これは、礼拝 にふさわしい場所はどこかと問う. サマリアの女性に対するイエスの答 えです。キリストは、物的な場所を 越えて、神は人の心の中に住まわれ る(ヨハネ14・23参照)こと、また 二人または三人が御名によって集ま るところに、ご自分が現存される (マタイ18・20参照)ことを告げま した。後年、パウロも、アテネのア レオパゴスで次のように教えまし た。「世界とその中の万物とを造ら れた神(…)は天地の主ですから、 手で造った神殿などにはお住みにな りません。また、何か足りないこと でもあるかのように、人の手によっ て仕えてもらう必要もありません。 すべての人に命と息と、その他すべ てのものを与えてくださるのは、こ の神だからです」(使徒言行録17・ 24-25) ^

神の超越性と、神との関わりにおけ る内面の重要性を第一に置くこと と、人間が、神の近さをより明らか に感じられる場所を必要とすること とは、矛盾しません。さらに、私た ちは個人としてではなく、教会、神 の民として救われるのです。教会と いう言葉自体、集会・集まりを意味 するギリシャ語(ekklesia)に由来 しています。実際、私たち信者が大 小の聖堂に集まるとき、キリストが 現存されるのです(特に聖体祭儀に おいて)。「わたしの家は祈りの家 と呼ばれるべきである | (マタイ 21・13)。今日のミサの福音で読ま れるこのイエスの言葉を思い起こ し、自分が教会や小聖堂、祈りの場 に入るときの態度を考えてみましょ う。そこを本当に神の家と感じ、直 ちに聖体の宿る聖櫃に目を向けるで しょうか。心の沈黙を保ち、祈るこ とができるでしょうか。神の近さや 忍耐、人間的でありながら驚くほど 親しい関係を保ってくださる神を礼

拝し、感謝しようとしているでしょうか。

アシジの聖フランシスコは、自分の 修道会のそれぞれの地域の共同体の 指導者たちを通して、司祭たちに強 く求めました。「わたしたちの主イ エス・キリストの至聖なる御体と御 血を、何よりも尊びなさい。 (…) 聖杯、コルポラーレ(聖体布)、祭 **壇用の装具など、いけにえに関わる** すべてのものは、尊いものとして扱 わなければならいないしょと。礼拝 に用いる建物や器具を大切にするこ とは、信仰と愛と感謝から生まれま す。理性だけでなく、感覚や感情も また、神に近づく助けとなるので す。

オプス・デイの創立者は、人間の愛 を例に挙げながら、礼拝に、美しい ものをささげる理由を説明しまし

た。「もし男性が愛する女性に、愛 情の印としてセメントの袋や鉄の棒 3本を贈ったらどうでしょう?そん なことはしません。同じように、天 におられ、また聖櫃におられるわた したちの主に対しても、私たちは可 能な限り美しいものを差し出すべき です!ြ気。また彼はこうも語ってい ました。「弱さからくるあらゆる欠 点は容易に理解できるが、怠慢によ る無頓着は理解し難い。祭具を清潔 に保ち、品格のある教会を建て、祭 壇を輝かせ、祭服を清らかに保つな ど、礼拝に関わることすべてに愛を 注ぐ人々を、神は特別な愛情をもっ て見つめられるだろう。そうした 人々は、その細やかさを通じて、信 じ、愛していることを示すからだ| [6]0

おそらくマリアも、ベツレヘムやナザレで、そしてその生涯を通じて、イエスに細やかな心遣いと愛を注いだことでしょう。ラテラノ教会の献

堂のこの日に、私たちも母であるマリアに、その愛を少し分けていただくよう願いましょう。

- [1] 教会献堂のミサ、叙唱。
- [2] ラテラノ教会献堂のミサ、集会 祈願(ラテン語)参照。
- [3] ラテラノ教会献堂のミサ、拝領 祈願参照。
- [4] アシジの聖フランシスコ、クストスたちへの最初の手紙。
- [5] 聖ホセマリア、手紙 6、28番。
- [6] 聖ホセマリア、聖ラファエル職のための指針、注167。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/mokusou-laterano-kendou/(2025/11/21)